

## 1. 第62回秋期特別総会(金沢)学術集会開催報告

標記総会が開催されましたので、以下の通りご報告いたします。

金沢医科大学を世話機関とし、野島孝之会長のもとで、平成28年11月10日(木)～11日(金)の2日間、金沢市文化ホールにて標記総会が開催された。学術研究賞演説(A演説)8題、B演説1題、特別講演2題、シンポジウム3件14題、病理診断シリーズ2題、ポスターセッションの発表と討論が行われた。その他、社員総会、理事会も開催された。

また会期後には、コンパニオンミーティング、IAP病理診断講習会等が開かれた。

## 2. 平成28年度一般社団法人日本病理学会秋期特別社員総会(東京)開催報告

先の金沢総会会期中の平成28年11月10日(木)14:20～15:20、金沢市文化ホール1F大ホールにて、標記社員総会が開催されました。

出席数 会場出席者165名、委任状出席者数2,038名、出席者合計2,203名

議長 野島孝之 第62回秋期特別総会会長

今回はその際の「報告事項」を抜粋してお送りいたします。尚、以下の「協議事項」につきましては、すべて承認となり、

会報347号(12月刊)P1～

[http://pathology.or.jp/side/pdf/KAIHO347\\_1220.pdf](http://pathology.or.jp/side/pdf/KAIHO347_1220.pdf)

にご報告いたしておりますので、そちらをご参照下さい。

また、理事会決定事項については、次号にておしらせいたします。

### 協議事項

- 平成29年度事業計画並びに収支予算に関する件
- 第64回(平成30年度)秋期特別総会会長選出の件
- 第108回(平成31年度)総会会長選出の件
- 学術評議員更新制導入にともなう定款施行細則改定の件

### 報告事項

#### 1. 理事長報告

理事長が標記の件につき以下の報告を行った。

- 現在の会員数は4,532名、医師が3,707名、歯科医師が330名である。病理研修医の登録制度が定着し、現在の登録者数は内科435名、口腔67名である。学術評議員数1,407名、うち女性が244名で、比率は17%にとどまっている。会員に占める女性の比率は25%であるため、女性の学術評議員の増加を期待したい。

- その他の重要な課題と取り組みとして以下のことを考えている。

- AMED(日本医療開発機構)委託事業:「ゲノム研究のための病理試料の取扱いガイドライン」を策定し、全国の研究者へ配布した。
- 「ゲノム診療のための病理検体ガイドライン」の策定を行う。
- 学術集会の国際化、ホームページ、あるいはコア画像の英語版については、着実に進められている。
- 2016年の秋よりNCD(National Clinical Database)での剖検報登録を開始した。
- H30年度診療報酬改定に向けて「行動指針2017」を策定中である。
- 「病理検体取扱いマニュアル」を作成し、ホームページに公表した。
- 「デジタル病理画像を用いた病理診断のための手引き(初版)」をホームページに公表した。これについては診療報酬としてデジタル病理画像診断診療加算がされるよう働きかけていきたい。
- 日本衛生検査所協会(日衛協)に衛生検査所の報告書から「病理診断」の文言、あるいは「病理診断と紛らわしい表記」を削除するよう要望し、削除の方向に向かって努力する旨、回答を得た。

#### 2. 専門医制度経緯説明

北川昌伸常任理事が標記の件につき以下の報告を行った。

##### (1) 研修制度の件

- 平成29年度の病理専門研修は、日本専門医機構(以下機構)の運営体制等の問題により、学会主導で専門研修プログラムに準拠した研修を実施することとなった。115プログラムで、専攻医募集数(定員)は303名である。

- ② 平成 29 年度研修プログラムの専攻医採用人数のアンケートを、今年の 12 月頃に基幹施設に対し実施予定である。
- ③ 機構では、平成 30 年度より専門医研修制度を開始する計画となっており、そのため専攻医選抜を平成 29 年秋頃から開始することになる。対応可能なように準備を進めていきたい。

(2) 機構運営体制の件

機構より運営資金借り入れの申し入れがあり、医学会連合での協議の結果、基本領域学会は基本料金 100 万円 + 200 円 × 会員数とし、既払い更新料はここから差し引くこととした。病理学会は既に更新料として 377 万円を納めているため、基本料金 100 万円を無利子で貸す方針で進める。

(3) 専門医資格更新の件

病理学会は平成 27 年秋より機構専門医の更新を開始している。更新者は機構へ 1 万円の認定料を納めているが、機構専門医の立場やインセンティブが明確でないため、機構の理事長宛に質問状を提出した。機構からは、将来的に広告できるのは機構が認定する専門医になるはずであるという趣旨の回答があった。この件は機構のホームページにも掲載されている。

3. 各種委員長報告

(1) 北川昌伸常任理事より病理専門医部会関係委員会の報告があった。

- ① 平成 28 年度病理専門医試験は 8 月 6 日、7 日に東邦大学で実施され、86 名が受験し 74 名が合格、合格率は 86% であった。平成 29 年度の専門医試験は 8 月 5 日、6 日に神戸大学で実施予定である。今後の試験会場は、平成 29 年神戸大学、30 年東京医科歯科大学、31 年東京医科歯科大学、32 年神戸大学を予定している。32 年が東京オリンピックの年に当たるため、変則的な計画となっている。
- ② 病理専門医資格更新については、平成 28 年秋更新申請対象者 451 名に対して、10 月 11 日付で更新書類一式を発送済みである。11 月末日を締切としている。また、10 月 21 日付で更新書類作成上の注意点をホームページに掲載した。

(2) 小田義直常任理事より企画関係委員会の報告があった。

1) ゲノム病理診断検討委員会、ゲノム病理組織取扱い規約委員会報告

- ① 近年のゲノム医療に対応するため Molecular Pathologist (仮称) 育成のワーキンググループを立ち上げた。関連する検査学会、臨床腫瘍学会会員もメンバーに加わり、新たなゲノム医療時代に対応できる病理医を育成する仕組みを整えていく。
- ② ゲノム診療のための FFPE の取扱いガイドライ

ン(仮称)を早急に作成し、NPO 法人日本臨床検査標準協議会(JCCLS)が検査全般に関するマニュアルを作成する動きに備えたい。

- ③ AMED(日本医療研究開発機構)からの委託業務「ゲノム研究用資料に関する病理組織取扱い規定の策定及び病理組織取扱いに関する実証研究」は今年度も 7 施設で実証研究を継続する。

- ④ ③の今年度のタスクとして、認証システムを備えた e ラーニングシステムの導入、新規解析法に対応した追加実証研究の継続、規定集の英文化、Pathology International への掲載を実施する予定である。

2) 男女共同参画委員会報告

- ① 今回の金沢学会のポスター会場で男女共同参画関連ブースを開設する。日本医師会女性医師支援センターよりブース出展資金の援助も決まっている。
- ② 100 周年事業における各支部での託児所事業は、残り 4 年の継続が決まっている。

3) 病事情報ネットワークセンター管理運営委員会報告

- ① 病事情報ネットワーク委員会は、剖検講習会の課題を病事情報ネットワークサーバーに掲載している。
- ② 今後は各種講習会等の利用や e ラーニングシステムの運用などを含めて活用推進を行う。

(3) 安井弥副理事長より広報関係委員会報告があった。

1) 広報委員会報告

- ① 会員管理システムの導入検討の結果、その開発を医療セキュリティレベルの高い日本ユニシス株式会社に依頼することとした。初期費用は 1,100 万円程度、運用費用は月 18 万円の予定である。
- ② ①のシステムの主な内容として、役員選挙、会員情報管理、会費の請求事務、新入会手続き、学術評議員の任期更新などである。会員の利便性向上と事務局作業の大幅な削減が見込まれる。導入目標を来年秋の役員選挙とし、これに間に合うよう進めていく予定である。

2) 社会への情報発信委員会報告

- ① 平成 28 年夏に開催された HANSHIN 健康メッセへ病理学会として出展し好評であった。
- ② ①に併せて一般市民向けの病理紹介パンフレットを 1 万部作成した。ホームページにも掲載する予定である。

3) 倫理委員会では、病理検体を用いた研究倫理について検討が行われた。

(4) 坂元亨宇常任理事より財務系委員会報告があった。

1) Pathology International 編集委員会報告

- ① オンライン化により投稿数が一時減少したが、今年度は世界各国からの投稿も含め、増加傾向にある。
- ② 今年度より High Citation 賞を設け、この総会の後に受賞者へ賞状を送る。来年からはアジア枠を1つ加えたい。
- ③ 会員の利便性向上のため、ファストトラック制度を今夏より導入した。
- 2) 剖検情報委員会は、今年度より剖検データは National Clinical Database を利用した登録方法に移行した。
- (5) 高橋雅英常任理事より学術系委員会報告があった。
  - 1) 学術委員会報告
    - ① 平成30年度宿題報告担当者の選考を行い、吉野正学術評議員、内木宏延学術評議員、北川昌伸常任理事が選出された。
    - ② 平成29年度病理診断特別講演担当者選考を行い、田中祐吉学術評議員、平戸純子学術評議員が選出された。
    - ③ 宮園浩平学術評議員担当の委託事業として、各病理学教室に対し、病理学講座での人材育成等についてアンケート実施に協力する予定である。
    - ④ 生化学会と分子生物学会より、2017年生命科学系学会合同年次大会への協賛依頼があったためこれを了承し、シンポジウムを企画し参加する。
  - 2) 教育委員会は各大学へ病理学教育の現状調査のアンケートを実施した。結果集計後、公表予定である。
- (6) 落合淳志理事より編集関係委員会報告があった。
  - 1) 編集委員会報告
    - ① 「診断病理」は、英文抄録を取り入れることになり、平成29年1月の投稿から必須化する。
    - ② 剖検輯報に関しては、NCDへの登録が開始された。これまで五十七輯の輯報が刊行されているが、その在庫管理体制について検討を行った。
  - 2) 癌取り扱い規約委員会報告
    - ① UICCのTNM分類の第8版が今年中に金原出版より出版予定である。
    - ② 日本癌治療学会と日本病理学会が合同で、全27の癌取り扱い規約の記載方法の統一を図る目的で、領域横断的癌取り扱い規約の作成を進め、平成30年の刊行を予定している。
  - 3) コンサルテーション委員会は今年4月より中皮腫のコンサルタントを追加した。
- (7) 田中伸哉理事より研究推進系委員会報告があった。
  - 1) 研究推進委員会報告
    - ① 第13回病理学会カンファレンスは小田副理事長を世話人として開催され、過去最高となる103名の参加者があり、ポスターも42題と大変盛況であった。
    - ② この5年間は六甲カンファレンスとして定着したが、会場改修のため、平成29年からの3年間は、愛知県の名鉄犬山ホテルで開催する。
    - ③ 第14回病理学会カンファレンスは平成29年7月28～29日に豊國伸哉学術評議員を世話人として開催予定である。
    - ④ 第15回病理学会カンファレンスは平成30年8月に森井理事を世話人として開催予定である。
    - ⑤ 分子病理講習会については、第106回東京総会の初日に3名の先生に講演していただく予定である。
  - 2) サマーフェスト委員会報告
    - ① 平成28年度の第10回は鷹橋浩幸学術評議員先生を世話人として、「泌尿器病理 とくに腎・膀胱・前立腺」をテーマに東京慈恵会医科大学にて開催された。
    - ② 第11回は平成29年9月2～3日に埼玉医科大学の新井栄一学術評議員を世話人として、炎症性皮膚疾患をテーマに、東京大学で開催予定である。
    - ③ これまで会場を京都、東京と交互に開催をしていたが、京都の宿泊事情のため、しばらくは東京に固定して行う。
  - 3) 診療関連死調査に関する委員会報告
    - ① 新制度が開始されて1年が経過し、報告数は388件であった。解剖は52件、解剖率32.3%、うち司法解剖が12件、行政解剖が4件含まれている。
    - ② 医療事故詳細把握の為、病理学会としてアンケート調査の実施を予定している。
- (8) 森井英一理事より医療業務系委員会報告があった。
  - 1) 医療業務委員会は、病理解剖の設備を持たない医療機関や一般の方からの問い合わせに対応するため、受託解剖が可能な病院、病理外来を実施している病院について各支部長へ、支部単位での調査を依頼した。
  - 2) ガイドライン委員会報告
    - ① 肺癌ALKプラクティカルガイドは11月7日にパブリックコメントが終了し、小修正後、ホームページに掲載予定である。
    - ② PD-1 / PD-L1のガイドラインについては、肺癌のワーキンググループを作り、案を作成中である。
  - 3) 精度管理委員会報告
    - ① 体細胞遺伝子検査の検査精度に関する調査研究を本年度も継続中である。データはほぼ回収さ



れ、間もなく報告できる状況である。

- ② 病理診断の品質保障システムは、生涯教育委員会と精度管理委員会で検討を進めている。
  - ③ 病理検体取扱いマニュアルの使用状況調査のためのアンケートを予定している。
  - ④ NPO 法人日本病理精度保証機構に関しては、CD-30の免疫染色、悪性リンパ腫で評価を行う。また次年度はALK 肺癌について行う計画である。
- 4) 社会保険委員会は、平成30年の診療報酬改定に向け鋭意取り組んでいる。

(9) 会場から

- 1) 前田一郎学術評議員より、日本ユニシスの月額運用費について高額ではないかとの、質問があった。

これについて安井副理事長より、管理運営の中にデータの補償も含まれていると理解している旨、回答があった。

また、坂元常任理事より、データベースの管理維持費やセキュリティの費用も含まれる旨の補足説明があった。

- 2) 伊藤智雄社会への情報発信委員会委員長より、先に紹介のあった市民向けのパンフレットについて、会員の中で中学や高校などで特別講義をする機会があれば活用されたい旨、呼びかけがあった。

4. 第62回(平成28年度)秋期特別総会の件

野島孝之会長より、本日より2日間の日程で金沢市文化ホールにて開催中である旨報告があった。

5. 第106回(平成29年度)総会の件

落合淳志会長より、平成29年4月27日(木)~29日(土)の3日間、東京の京王プラザホテルにて開催される旨報告された。

6. 第63回(平成29年度)秋期特別総会の件

内藤善哉会長より、平成29年11月2日(木)~3日(金)の2日間、東京の教育会館にて開催されるとの報告があった。

7. 第107回(平成30年度)総会の件

笠原正典会長より、平成30年6月21日(木)~23日(土)の3日間、ロイトン札幌、及びホテルさっぽろ芸文館にて開催されるとの報告があった。

その他

1. 深山理事長より発言があった。

ICTを活用した次世代型保健医療システムの構築に向け、国から提言が出された。人工知能による病理画像診断あるいは診断の補助のシステムが、1つの項目として取り上げられているため、認定施設等におけるデジタル画像の利活用について緊急アンケートを予定しているため、協力をお願いする。

以上

3. 平成28年度認定施設、登録施設(第39回)審査について

認定施設、登録施設としての新規の申請は、9件、40件(うち2件は併願)でした。審査の結果、認定施設は7件、登録施設は37件が承認されました。認定及び登録期間は、それぞれ平成28年4月1日から平成30年3月31日までです。

尚、専門医制度移行期につき、今後研修施設制度も変更となる見通しです。その節は改めてお知らせ申し上げます。

(1) 認定施設

認定番号	施設名
3027	藤沢市民病院
4011	静岡県立こども病院
4032	総合大雄会病院
3088	成田赤十字病院
4089	国際医療福祉大学熱海病院
4094	地方独立行政法人桑名市総合医療センター桑名東医療センター
5095	市立伊丹病院

(2) 登録施設

登録番号	病院名
1047	独立行政法人地域医療機能推進機構 札幌北辰病院
2024	(財)脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
2045	医療法人徳洲会仙台徳洲会病院
2046	公益財団法人仙台市医療センター仙台オープン病院
2047	栗原市立栗原中央病院
2048	鶴岡市立荘内病院
2049	山形県立新庄病院
2050	新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟医療センター
2051	新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院
3043	医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター
3121	国際医療福祉大学病院
3151	茨城県厚生連総合病院水戸協同病院
3152	JAとりで総合医療センター
3153	群馬県立小児医療センター
3154	医療法人財団明理会 新松戸中央総合病院
3155	公益財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院
3156	東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
3157	JCHO 東京都新宿メディカルセンター
3158	医療法人社団こうかん会 日本鋼管病院
3159	市立甲府病院
3908	北里大学東病院
4093	岐阜県厚生農業協同組合連合会中濃厚生病院
4140	北アルプス医療センターあづみ病院
4141	独立行政法人労働者健康安全機構 富山労災病院
5047	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
5063	大津市民病院
5101	医療法人健康会 新京都南病院
5102	社会医療法人岡本病院(財団)京都岡本記念病院
5103	地方独立行政法人奈良県立病院機構奈良県西和医療センター
5104	市立奈良病院

- 5105 大和高田市立病院
- 5106 公立那賀病院
- 5132 一般財団法人甲南会 甲南病院
- 6043 JA 高知病院
- 6078 岡山赤十字病院
- 7100 九州旅客鉄道株式会社 JR 九州病院
- 7101 社会医療法人天神会 新古賀病院

#### 4. 「肺癌における ALK 免疫染色プラティカルガイド」公開

日本肺癌学会・日本病理学会合同 ALK-IHC 精度管理ワーキンググループが標記手引きを策定、公開いたしました。ご活用下さい。

<http://pathology.or.jp/news/pdf/guide-170110.pdf>

#### 5. 医学教育認証制度に関連した卒前病理学教育の現状に関するアンケート報告

教育委員会では平成 28 年 7 月に表題のアンケートを実施し、結果を集計して平成 28 年 12 月 20 日付でホームページに掲載いたしました。ご参照ください。

<http://pathology.or.jp/news/whats/enquete-161220.html>

#### 6. 厚生労働省健康局難病対策課より「難病指定医」についての周知依頼

表記の件につき、下記の通り周知依頼が参りましたので、ご報告申し上げます。

厚生労働省健康局難病対策課より

当省 HP において、指定医研修開催状況一覧（平成 28 年 12 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）を掲載いたしましたのでお知らせいたします。

資料の通り、難病指定医の要件 ② 診断又は治療に 5 年

以上従事した経験があり、一定の研修（※）を修了していること。※ 1～2 日程度の研修に基づき、経過的特例により難病指定医に指定されている場合には、平成 29 年 3 月 31 日までに都道府県が開催する研修を受けて頂かなければ、その効力は失われます。また、今年度中に研修を受けずに指定医の効力が失われた場合、再度指定医に指定されるためには、改めて都道府県に対して指定医の指定の申請を行う必要があります（指定にあたっては、都道府県が開催する研修を受ける必要があります）。

上記について、都道府県市、研究班から、また、厚生労働省 HP でも周知しております。

各研修会に関する詳細については、HP 内の問い合わせ先までお願い致します。

病理学会 HP

<http://pathology.or.jp/news/whats/news-170110.html>

厚生労働省 HP

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/nanbyou/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/nanbyou/index.html)

参考資料（PDF）

<http://pathology.or.jp/news/pdf/news-170110.pdf>

#### 7. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

高橋 潔 名誉会員（平成 28 年 12 月 14 日ご逝去）

## お知らせ

#### 1. 日本顕微鏡学会 第 73 回学術講演会

開催期間：2017 年 5 月 30 日（火）～6 月 1 日（木）

学会テーマ：顕微鏡学の融合を改めて問う

開催場所：札幌コンベンションセンター

大会ホームページ：<http://www.c-linkage.co.jp/jsm73/>